補助事業番号 2020M-197

- 補助事業名 2020年度ランジュバン型振動子を用いた超音波経皮浸潤効果の検討とニー ドルレス薬剤投与デバイスの開発補助事業
- 補助事業者名 東京工業大学 物理理工学院 倉科 佑太

1 研究の概要

ワクチンなどの注射による薬剤投与に代わる新たな経皮投与方法として超音波投与の効率的 な手法を確立した.具体的には、ナノ薬剤の懸濁液を皮膚に塗布し、超音波を照射することで皮 下に投与した.照射条件を検討できるように超音波発信機を具備した超音波照射デバイスを開発 し、経皮浸潤効果のメカニズムを解明した.さらに、先の検証結果に基づき、高分子医薬品を超音 波により経皮投与可能とするために、新たな超音波とナノキャリアを用いた新たな薬剤投与の系 を確立した.これにより、従来では自身の不安定性から経皮投与が困難であった線維芽細胞成長 因子(bFGF)を高効率で生体に投与することに成功した.

2 研究の目的と背景

本研究の目的は, ニードルレスで薬剤を投与するための超音波照射デバイスを構築することで ある. 初年度では, ナノ薬剤を皮下に投与するための超音波照射条件や周囲の照射環境, ナノ 粒子の投与可能なサイズなど基礎的な検討を行った. 本年度は新たな振動デバイスの構築と, 照射する音圧を測定装置の製作, そしてこれを用いた振動特性の評価を検討した. また, 投与す る目標の生体高分子の一つであるbFGFを含有したキトサンナノキャリアの生成を検討した. 最後 に, bFGF含有キトサンナノキャリアをマウスの皮膚への投与可能かを検討した.

3 研究内容

(1) 超音波によるナノマテリアルの経皮浸潤効果の基礎的検討

(<u>https://web.tuat.ac.jp/~kurashina/research/</u>)

超音波を照射することで皮下にナノ薬剤を投与可能な超音波照射装置を製作した(図1). これ を用いて, ポリスチレン, シリカ, 金のナノ粒子をマウス皮膚に投与した(図2). その際, 皮下に異 なる音響特性の裏地(筋肉や骨に近い音響特性)を配置して, ナノ粒子の浸潤効果を検討した.



図1 超音波照射装置の製作



図2 マウス皮膚への超音波照射

(2) 生体高分子を超音波投与するためのナノキャリアの製作

(http://2022-03spring.jspe.or.jp/wp/wp-content/uploads/pdf/22-03-program.pdf)

生体高分子の一つである線維芽細胞成長因子を超音波により効率的に皮下に投与するために, キトサンを用いたナノキャリアを製作し,成長因子をカプセル化することで成長因子の安定性を増 加させて皮下への投与効率の向上に成功した(図3,4).



図3 キトサンナノキャリアによる投与

4 本研究が実社会にどう活かされるか―展望

本研究が社会実装されることにより、糖尿病患者やワクチンなど薬剤の経皮投与を必要とする 患者に対して注射とは異なるニードルレスな投与方法を提示することが可能である。糖尿病の患 者数は300万人を超え、インフルエンザワクチンの製造量が年間2500万本を超え、最近では新型 コロナウイルスのワクチンの摂取量が全国民の80%を超えるなど、薬剤の経皮投与の需要は年々 増加傾向にある。こうした患者に対して注射による苦痛を低減することや使い捨ての自己注射や 在宅自己注射指導管理料を必要としない患者の負担を低減した薬剤経皮投与手法の確立により 患者の精神的、肉体的な苦痛を取り除く未来に期待することができる。

5 教歴・研究歴の流れにおける今回研究の位置づけ

事業者は、生体の活性向上やそのメカニズムを分析するため、主に超音波をアクチュエータとし て生体に照射するバイオメカニクスの研究に従事してきた.加えて、マイクロ加工を基盤とした細 胞培養システムやDDSデバイスを開発し、バイオメディカルデバイスに新たな機械要素を取り入 れる研究に従事してきた.本研究を遂行することで、超音波がナノマテリアルや生体に及ぼす影 響について深い知見を得ることができた.すなわち、これまでのマイクロスケールでの生体に及ぼ す超音波研究に加えて、ナノスケールでの生体に及ぼす超音波研究を実施することができた.こ れらの研究成果が評価されることで、2022年度からは研究室の主催研究者(PI)として新たな研究 室を立ち上げることができた.

6 本研究にかかわる知財・発表論文等

Yuta Kurashina, Risa Asano, Makoto Matsui, Takahiro Nomoto, Keita Ando, Kentaro Nakamura, Nobuhiro Nishiyama, Yoshitaka Kitamoto, Ultrasound in Medicine and

Biology, 2022 [in press].

 <u>Yuta Kurashina</u>, Risa Asano, Makoto Matsui, Takahiro Nomoto, Kentaro Nakamura, Nobuhiro Nishiyama, and Yoshitaka Kitamoto, The 42nd Symposium on Ultrasonic Electronics, (online), 2021/10/27.

 <u>Yuta Kurashina</u>, Risa Asano, Makoto Matsui, Takahiro Nomoto, Kentaro Nakamura, Nobuhiro Nishiyama, Yoshitaka Kitamoto, The 12th International Conference on the Science and Technology for Advanced Ceramics, Online, 2021/7/7

 <u>Yuta Kurashina</u>, Risa Asano, Makoto Matsui, Takahiro Nomoto, Kentaro Nakamura, Nobuhiro Nishiyama, Yoshitaka Kitamoto, International Ultrasonic Symposium, Las Vegas (Online), NV, USA, 2020/9/10.

・○<u>倉科佑太</u>, "超音波照射が植物の成長や線虫の記憶に及ぼす影響,"日本材料学会 第 62 回 生体・医療材料部門委員会, オンライン, 2021/8/23.

・○<u>倉科佑太</u>, "超音波アクチュエータを活用したバイオメディカルデバイスの開発,"精密加 工学会 春季大会学術講演会 キーノートスピーチ, オンライン, 2022/3/15.

7 補助事業に係る成果物

(1)補助事業により作成したもの

題目:Quantitative analysis of acoustic pressure for sonophoresis and its effect on transdermal penetration, 雑誌:Ultrasound in Medicine & Biology



(https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0301562922000448)

(2)(1)以外で当事業において作成したもの

題目 : Transdermal delivery of large nanoparticles via ultrasonic irradiation in low-frequency range.

学会名: 2020's IEEE International Ultrasonics Symposium

(https://2020.ieee-ius.org/sites/ius20/files/2020-09/IUS%202020%20Final%20Program2_0.pdf)



8 事業内容についての問い合わせ先

所属機関名: 東京農工大学工学部機械システム工学科 (トウキョウノウコウダイガクキカイシステムコウガクカ) * 2022年4月現在

住 所: 〒184-0012

東京都小金井市中町2-24-16 6号館 401号室

- 担 当 者 倉科佑太・准教授(クラシナユウタ)
- 担 当 部 署: 機械システム工学科
- E m a i I: kurashina@go.tuat.ac.jp
- U R L: <u>https://web.tuat.ac.jp/~kurashina/</u>